

門 7 6
號 4362
卷



48 528

序

古の書に留味しつゝ
天竺氏にしきく、
皇國の原形を
文をよむに
はるかに

多分家... 國の... 股... 那... 相... 来...

後之明天皇... 吉... 日... 行... 稔... 様...

意のく廣く四の人のよもるを安よく
志まじきかの目をも欲せんといふ抑あ
初稿の圖を相のびふ判りませし
も多射の射のの業をいふに
具はあといふ便に
いふはあといふに
いふはあといふに
いふはあといふに

國海をいふに寫し
可きハ眼のみるん
いふはあといふに
いふはあといふに

天保三年正月

まな文

一行の見物も琉王も童もそのか一評もなる風係めら

し美衣後亦其の音もなると要しは文化と室との

事形より中なるもまて坊七日月の来朝よそま

いほのふり船とらんももろりろく実よを代の

松観するよもこれとすらんは時行列のときん

人よおのこもろくろく人のこもらんよいん

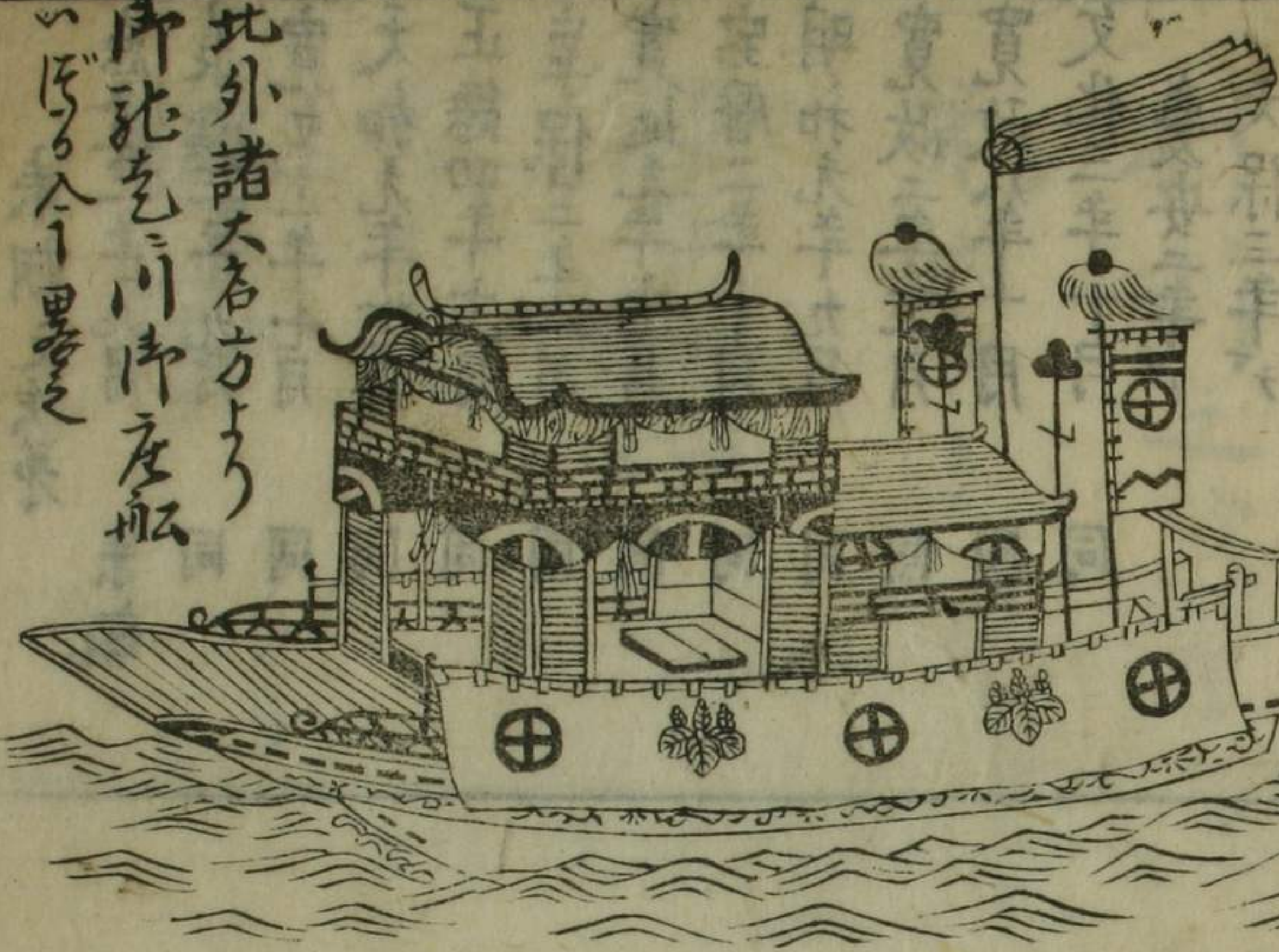
具くろくもろくもろくもろくもろく

一行列を海陸おろく道中めくははの増減もはろ

あのおんるらんもろくもろくもろくもろく

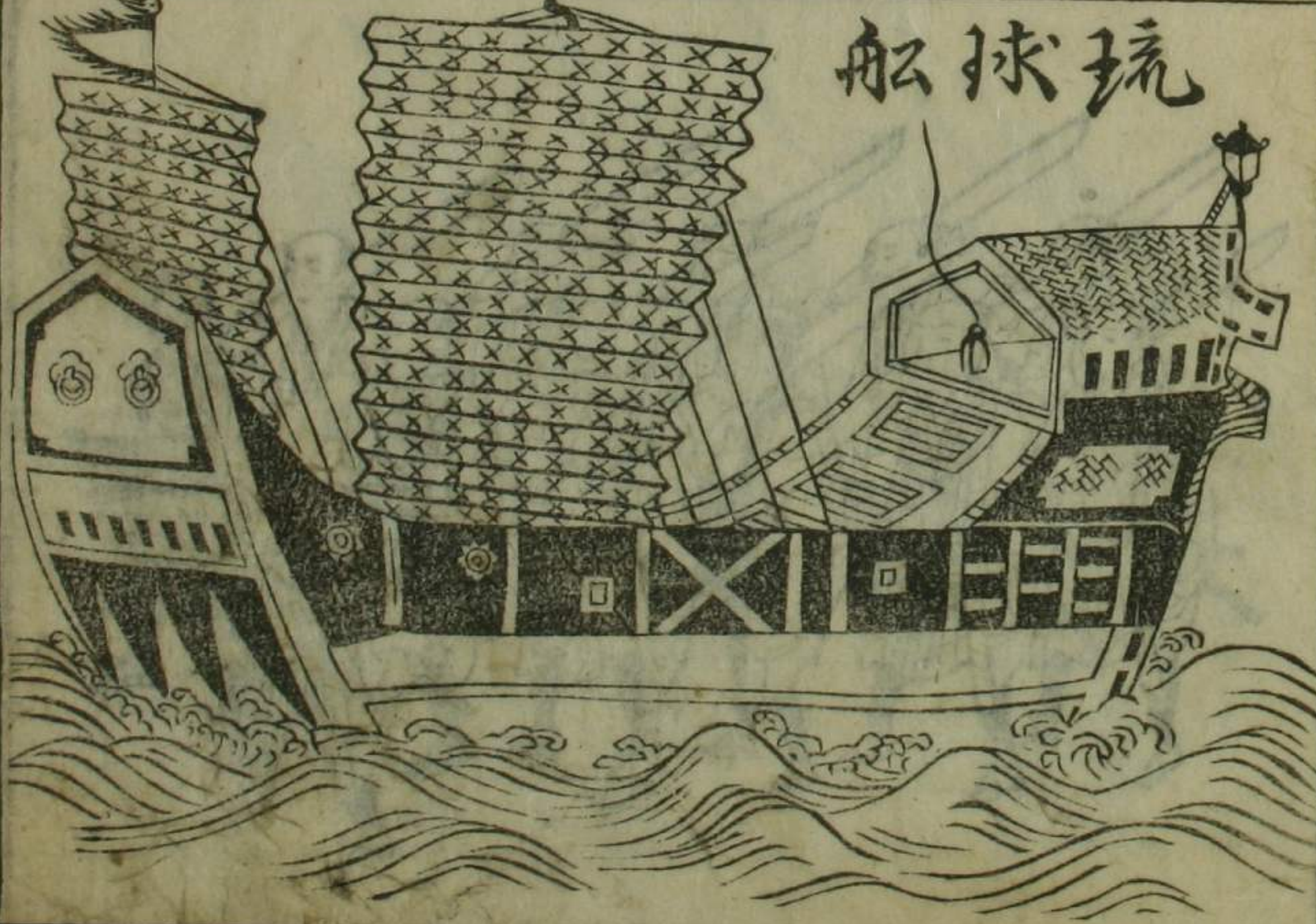
おろくもろくの行ふよもろく

薩州川御座御船



北外諸大名方より
所馳を川御座船
いぼる合い里を

琉球船



未朝之次第

應安二年九月

未朝

義應三年九月

同

寛文十一年七月

同

天和元年十月

同

正徳四年十月

同

享保二年八月

同

寛延元年十月

同

宝暦二年十月

同

明和元年九月

同

寛政二年十月

同

寛政八年十月

同

文化三年十月

同

慶安二年

同

天保三年

同

百八十四年二十九

行列之次第

先

敬言固

引

旗竿



道 具
奉 行
騎 馬



長 柄



對^{たへ}
鎗^{やり}

對^{たへ}
箱^{はこ}

弓^{ゆみ}



具^ぐ
足^{そく}

先^{さき}
馬^ば



小^こ 長^{なが} 刀^{かみ}
 胜^{かつ} 刀^{かみ} 筒^{つづみ}



徒^ろ 臺^{たい} 立^{たて} 中^{なか}
 士^し 傘^{かさ} 傘^{かさ} 鎧^{よろい}



茶^{ちや}辦^{べん}當^{どう}

對^{たい}箱^こ

鎗^や



御^ご家^か老^{ろう}

嶋津但馬殿

所高三万八千石



引馬 ひきま

押 おし



樂器箱 がくきすん

但一を泥工
樂器の二字より

書翰箱 しょくわんすん

但一は是れ白字の
残りのあり



鼓たいこ 唎ちやう 噴ひち 銅どう
つや らん ら
 唎ちやう 唎ひち 鑼ら
め ら ら
 二行 銅角 二行 兩班
とん ごちやう
し ご



鞭むち
ちん
 牌はい 二行
 張ちん 旗き
ちん き
 板朱ぬりいとうしん 令
は

但世いさへ指のこしとて大竹
 長十一丈むかりとくの方
 了は別をいりおれをなく
 思朱ぬりいとうしん



虎旗

三司官

他國王の書翰を
取付しつゝのちうりけ國
うてニエのここの二ちうり

冷傘

他いぢりめんうてニき
小かざら

龍刀

いへちりまき刀の
しんかり

正使
使贄

與儀霸親雲上

玉城 親雲上

跟伴教人

倍人のりかこ



轎きやう

正使 豊見城王子

但し唐の衣冠ナリ

跟伴

教十人

立傘

但しさきとをまの

しなりのしほ

鎗やり

正使 使 賛

譜久山

親雲上

讀谷山

親雲上

真栄平

親雲上

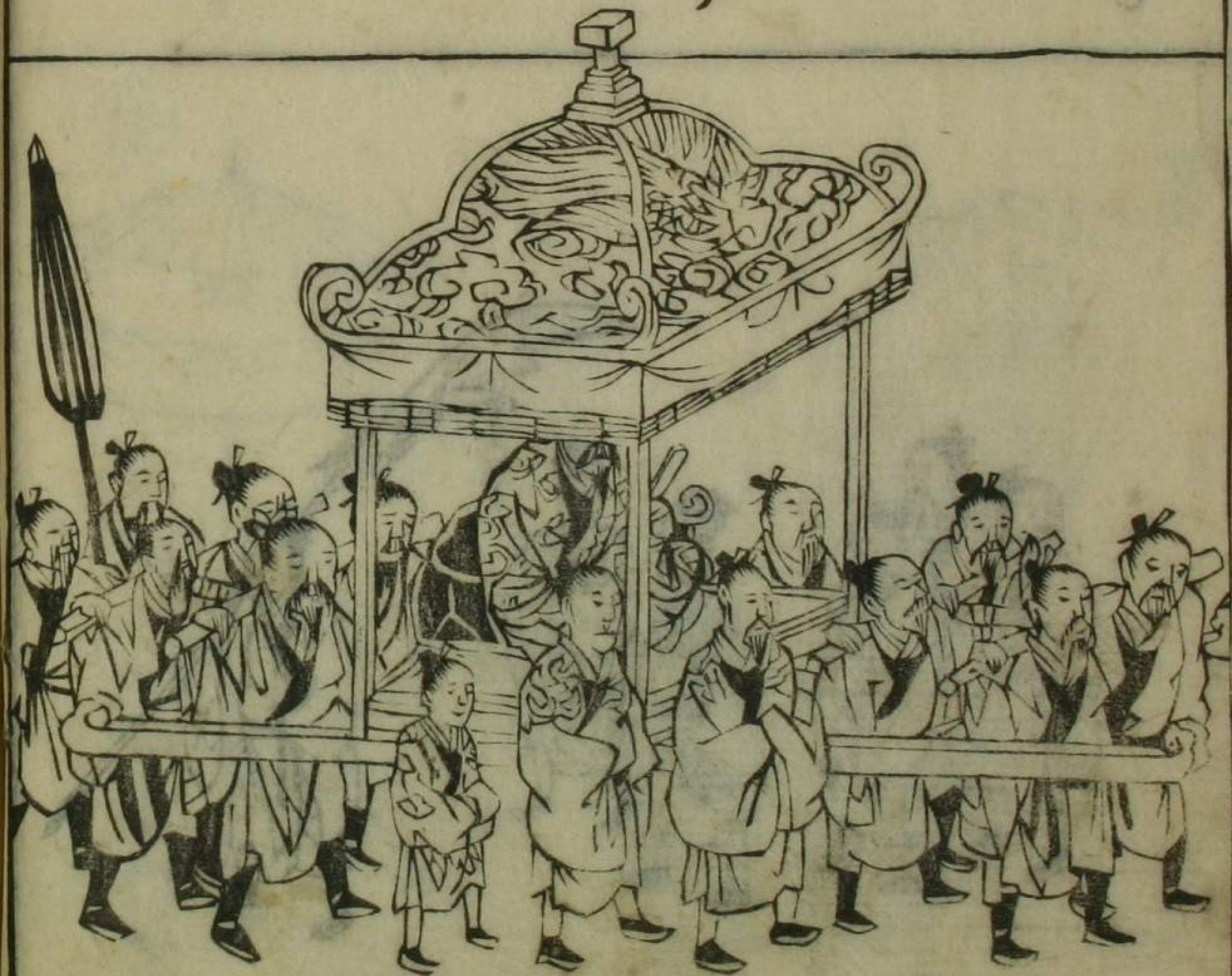
讚議官さんぎくわん

普天向

親雲上

正使附没入

但琉球の衣冠ナリ



鎗

樂童子六人

たのこちんこちん

かきちん十四

十ちんをさる歳の
かきちんおきん後と
とんとんとておん
ちん人ののちんあり
ちんよのちんをさる
ちんをさるちんをさる
ちんをさるちんをさる
ちんをさるちんをさる

登川里之子

譜久村里之子

濱元里之子



宇地原里之子

富永里之子

小録里之子

至而美少年ナリ



樂師

富山

親雲上

池城

親雲上

具志川

親雲上

内間

親雲上

城向

親雲上

樂正

伊舎堂 親雲上

樂人のかゝらちり

琉球の版と云ふ



龍

刀半

副使

沢紙

親方

但し唐衣冠ナリ

副使

使貧

與古田

親雲上

小波蔵

親雲上



傘かさ 鎗やり

議ぎ 衛ゑ 正まさ

儀ぎ 向まう 親おん 雲うん 上じやう

路ろ 次じ 樂らく 奉ほう 行ぎやう 也

右みぎ 琉りう 球きう の 衣い 冠くわん 也

跟ぎん 伴ばん
教きやう 人にん

掌てしやう 翰かんとん 使し

與よ 那な 霸は 親おん 雲うん 上じやう

祐すけ 筆ひつ 之の 右みぎ 又また 十じゆ 九く 日にち

天てん 貝がい 渡わた 使し

宮みや 里り 親おん 雲うん 上じやう

瀨せ 名な 渡わた 親おん 雲うん 上じやう

德とく 田た 親おん 雲うん 上じやう

浦うら 寄ぎ 親おん 雲うん 上じやう

許きよ 田た 親おん 雲うん 上じやう



サクガワ
佐久川 親雲上
ヒカカ
比嘉 親雲上

醫師

琉球の衣冠ナリ

跟伴
救十人

漢文



讚議官 返者

樂正 返者

正使小性
美少年也

供疏人

路次樂人

此の列校更に
しるも今略



公寶



音樂之次第

太平調 七人七人

桃花源 月上

不老仙 月上

楊香 明曲 七人二人

壽尊翁 清曲 月上

長生元 七人七人

道中宿陣割

伏見宿 新設寺村 体

大津宿 守山 体

武佐宿 高官 体

桑場宿 今洲 体

桑原宿 墨俣 体

稻系宿 宮 体

鳴海宿 大湊 体

御油宿 吉田 体

二川宿 新宿 体

舞坂宿 淡雲 体

袋井宿 日坂 体

島田宿 園部 体

府中宿 奥津 体

蒲原宿 魚 体

三崎宿 笈根 体

小田原宿 平塚 体

藤沢宿 程ヶ谷 体

川崎宿 品川 体

江戸 体

芷蘭香 日工

壽星老 明曲 月上

正月 清曲 月上

古樂の道中宿の歌の

おまゝに日中行列の中

宿名おのりもあらず

中河女子舞ハ席とまの

しきり海江とくはな

琉球人 凡二百人余
 但上中下官も印籠
 毛も花もさるるあり麻子ハ
 乾解におるし
 薩摩御人較上下凡百人余
 人足凡部千人馬凡八百疋
 一々の証天名方よりし
 御託も人較未だ終より
 出さや

中山王より獻上物
 河まゝの有りし今思ふ
 琉球より江戸生まで行程
 七百指を里余琉球より薩摩
 鹿思島と三百里自らかゝる
 大坂と或百七指二里余大坂より
 江戸生まで百二十五里

琉球しむ
 日と へびがまし
 月と つまがまし
 火と まがし
 水と ゑがし
 男と じんが
 女と ままご
 鞍版と 新えさ
 色版と あせ
 夕版と ゆふえ
 簪子と きご

三弦と さんちや
 草履と ささ
 一駄と けんた
 いやしやとさると ちあ
 かつひとふるとと きりりちや
 物とけむの時 きりりさとしふ
 ちとけむりたしハ美男とき
 ちとけんがとしふがし
 うとけむり人ときとけんげん
 けん女とけむりとしふけんげん
 けむりや又けむりとしふけんげん

千時天保三年辰十月来朝

薩列御出入方

伏見箱屋町

御免

取次判元

丹波屋新左門

同下板橋

魚春市之丞

寺町通錦小路上

菱屋弥兵衛

京都書林



